





外療細漸卷下目錄

鷹取甚右衛門尉撰

癰疽 二 疔

風毒腫 付タリ 風種

風毒 五 脚氣

雜熱 七 鐵針

一切之愈藥 九 洗藥

横根 上卷 便毒 上丹毒 上中二

齒草 中卷 三 口内痛

喉二針 中卷 五 唇 上卷 二

耳鳴 十七 鼻病

水疔火疔 十九 大瘻腫物見様



腫物一夜ニウケスル様

遺藥上卷三 苳 頭三出荷根

癩癧 苳 金瘡

腸ヲ入事 苳 血廻

骨ヲ續事 苳 頭疔

疔人 俄ニ血ハレル夏

ツホ疔 疔洗藥

内藥指合食物

金瘡二十二運

疔瘡之療治代々明方之夏

膚守 薄色 琥珀散

三國一 罕 流藥

私白散 二聖散

安平散 茜 九色散

黃蘗散 六味藥

油藥 生散

新命丹 諸膏藥之明方

萬安膏 佛下膏

神仙膏 太全膏

石林膏 辰千膏

万金膏 太し膏

吸疾膏 卒 保命膏

王鑰膏 卒 仙人膏

三 滿金膏 齒 金仙膏

五 吸し膏 卒 一 目膏

七 紫金膏 卒 八 千仁膏

九 萬勝膏 卒 十 膿失膏

三 吸六膏 卒 三 光明膏

五 萬用膏 卒 五 大愈膏

七 惣勝膏 卒 六 清金膏

七 金竜膏 卒 七 疝膏藥

九 方用膏 卒 九 用定膏

全 安平丹 全 專用膏

全 膏藥之練樣

外療細漸卷下

一 癰疽

一 癰疽ヲ初メテ治セハ先頭ニ可灸亦
 針ヲ立テ按蒸ヲ入テ廻リニ青木葉
 ヲ粉テ榆皮ヲ三分一加ヘテ梅ノ酢ニ
 テ延テ付テ上ニ紙ヲ細ニテ付ヨロ
 明テヨリハ洗藥ニテ四白散ヲ入レテ
 其上ニ彼地蒸ヲ又所入ナリ地蒸ニ
 忍冬葉同ク良ナリ合セ様ハ如前
 初發ニ強痛全モノナリ其時ノ内蒸
 ニ乳香散ヲ三服ホト可用痛ミサ
 ホトニモナクハ十全内補散ヲ毎ニ可
 用ナリ若痛者ニ丁香沒藥ナドヲ
 加ヘテ可用ナリ此内補散ト云ハ初

殺ニ用六速ニ散シ味膿物ヲ八潰ス藥
ナリ亦輕キ者ニハ忍冬ト莖葉ニ味ヲ
刻ミテ煎ジテ湯水ヲモ留テ是計ヲ
可吞ナリ本ニ青木葉ヲ能擱テ塩水
シ入テ口ニモ廻リニモヒタト付テ良也
灸ヲスルトモ頭クビノマリノ物ニハスベ
カラズ火疔ニミキレテ必ズ大事出來ス
ルナリ強ク赤ミ有痛ハ六蛭ヲカウ
ベキナリ

三 疔

一疔ヲ治スルニ初メ大夏ニ見ハ先秘灸
ヲ可用ナリ腰ヨリ上ニ出タラス手ニ
スベシ先ニ壯バカリサノニツツク
タ成ホドスベシウレロノ野故ト云

モスルナリ是モ先針ヲ立ルナリ何
ニモ直ニ灸スル莫不可有火疔赤疔
煙疔蘭疔ナドニハ灸スル莫大夏也
熱疔ヲハ可冷ナリ冷シ様ハ桶ノ十
キ輪ノモトニ穴ヲアケテ樋ヲアケ
テ腫タル所ニハ藍漆ノ物ヲアテ、其
上へ水ヲカクベシフルウホド冷スベシ
カヤウノ熱疔ノ付藥ニハ赤白仁
寒水石亦ハ石膏ナドヲ加ヘテ水ニ
テトキ鳥ノ羽ニテ細ク可刮ナリ
内藥ニアサキ物ニハ 大黃外麻湯
九珍散ナドナルベシ是ハ冷藥ナリ
亦大夏成モノニハ 五香連翹湯ヲ可
用是ハ一切ノ大夏ノ腫物ニ用元也

名モノク悪瘡ナドニハ托裏藥備湯
亦ハ十六味流氣飲ナド良キナリ
亦諸瘡ノ腫テ赤クハレカクカユク。シ
タ、ルキ物ノ類ニハ升麻和氣飲ナ

トヨカルベキナリ

三 風毒腫

一風毒腫ノ類ニハ付葉ニハ赤白仁
ヲ水ニテ烏ノ羽ニテ細ク可判ナリ
亦赤ニ付テ痛クハ米ノ酢ニテ可判
内葉ニハ人參敗毒散ヲ用ヒヨ時ニ依
テ可加減着遅ク見付テ膿タラハ
針ヲ立テ膿ヲ出せ其時ノ内葉ニハ
十全内補散ヨカルベレ諸瘡破レテ後
ニハ黃芪人參湯ヲ用ヒテ良シ物ニ

針ナド立灸ナドスル良悪キナリ

亦風腫ト云ハ是モ腫出ル所ハ筋ニ同
然レトモ此腫物ノ様ハカタマリテ
脈ヨリ押セ下地ニハ不付レテ浮タ
ルマウニユルグナリ底シタルクカユ
ク又ソクロイタク有物ナリ此時ノ
付葉ニハ桂心ヲ末シテ榆皮ヲ二分
一加ヘテ可付ナリ上ニ紙ヲコニカニ
シテ付ヨ内葉ニハ敗毒散良シ若シ
膿ツブレタラハ十全内補散ヲ可

四 風毒

一風毒ト云物モ腫マウハ同シ必シカ
ハルナリ是モ常ニ押葉良キナリ
内葉ニハ何レモ敗毒散ヲ可用ナリ

五 脚氣

一脚氣ヲ治セハ是ハ各イロク有テ
柝メハ見知難キ物ナリ若膝ナド
腫痛ハ六付葉ニハ圓鼠ノ灰ヲ米
ノ酢ニテ付ルナリ藥煉粉三分一
加ヘテ付ヨカヤウノ脚氣ノ内葉ニ
加味敗毒散ヲ可手強ク痛ミテ不可
忍ニハ防已湯良ナリ常ニハ五積散
ナドヨカルベシ方アマタ有リ

六 雜熱

一雜熱トテ何トモ不知カタ子ノ如
ク成ルヤウニ腫ル物多シ其ニハ常ノ
藥棟散ヲ付テ良ナリイマタ柝メ
ナラハ頭ヨリヒタト付テ良シ時分ス
ギテ加入サウモナクハ頭ヲアケテ

クハリヨリ付テ二三日モシテ針ヲ

立テ良カヤウノ物ノ痛ミ疼クニハ
寒水石ヲ赤白ニ合テ水ニテ付ヨ

七 鉄針

一凡ソ鉄針ヲ不用所ハス子キビス
トナリ手クビナトニ不用是ニハ蛇眼
赤ト云瘡有テ鉄ヲヨスレハ不愈モ
ノナリ能見分ヨ

八 一切之愈藥

一一切ノ愈藥ニハ四白散ニ益タル
ハナシ能愈ルモ五拾種ホトアレドモ
ソレク良モアレドモ是ニテ不愈物
ハナシ

九 洗藥

一洗藥ノ類多ク有リ先ヨリ先用ユルハ
薄荷葉 藤胞 忍冬 車前 藜蘆
辟瘟 桑 寶膏 杉葉 木瓜 槐
井柳 蕎麥膏 右カヤウノ類也
是ニ皆々分々ノ役有中ニモノバワラ
入更口傳アリ添テナキ時コノ中ヲ
見分テ可用ナリ

十 横根 上卷ニ便毒

一横根トテ世上ニ云ハ便毒ト云物
ノ更ナリ是ニ常ノ療必レモ不用
付藥ニハ 伏竜子 噌丹 三蛇ノ霜ヲ
加ヘテ付ル良シ是ヲ加ユル子細食
ヲ付レハ其煩ヒカ汗ニ成テ出ル故
ナリ便毒ニヨラス時ニヨリ可用也

ソウジテ横根ト云物ハレハキモノ
ニテ驗レナキ物ナリ故ユヘニ氣ノ短
カキ人ハ細ク醫ヲカユルナリ此流
ニハレメニ三所程ニ灸フレテ佳シ
サテ伏竜子 噌丹 二藥棟ヲ半分加
ヘテ梅酢ニテ延テ付テ上ニ紙ヲ如
常ニ付レ終ニハ加ハ入ナリ次第ニ堅
ク成テイツトナク平愈スルモノ也
氣短カキ人ノハイロハヌガヨキナリ
若膿潰レテハ洗藥ニテ洗フテ四白散
ヲ敷テノレルニテ付テ上ニ膏蒸ヲ
付テウチヘハ内補散ヲ可トナリ

十一 丹毒 上中ニ

一丹毒是ヲ世上ニ草ト云名付タル
物ノ夏ナリ付藥ニハ 金草丹ヲ拵キ
可付又ハ赤白仁ヲ水ニテモ藍ノ汁ニ
テ可付ナリ 又定草ニハ藥棟ヲ付
廻シテセキテ赤キ分ニ本藥ヲ付シ
ナリ内藥ニハ 外麻湯良シ 亦ムケ
爛レタル瘡ニハ 白葉散ヲカミノ油
ニテ良 亦穴草ニハ藿風散ニ硫黄
ヲ加ヘテ付ヨ 亦ス子中ニハ 通葉ヲ
米ノ酢ニテ搗テ付ヨ 亦浮骨疽白
虎癰節龍麝ナド、云モ皆是ナリ
大夏ノ物ナリ 膿潰レテハ後ニ骨碎テ
出ルモノナリ

十二 齒草

一齒草是ニ夕大夏ノ物ナリ 根カ、
子トモニ落テ死スルナリ 藥ニハ專ラ
藿風ヲ可用洗ヒ藥ニテ能ウガイヲ
シテ後ニ藥ヲ付ヨ内藥ニハ 諸齒ノ
部ノ藥ヲ可用ウガイ藥ニハ 柚葉
出巢 アカサ 藿風是ヲ能煎シテ
ウガイスベシ 齒肉ヨリハ血ヲトラヌ
良ナリ

十三 口内痛

一口内痛ニ 木舌トテムツカレキ物
ナリ 舌ノ下ノツリオノワキニ核ニリ
テ有ラ 針ニテハ子キリテ血ヲ出シテ
南天葉 梅干 何レモ露ニメ蒲黄ヲ
加テダウサヲモ加ヘ末シテ細ク付ヨ

亦喉ノ下ニ秘灸モアリ 内蒸ニハ
桔梗湯ヲ吞ミ含ムモ佳ナリ 亦霜ニ

シテ付テ良ナリ

十四 喉ニ針

一喉ニ針ヲ刺スナリ 何モクルレカフ子
トモ喉腫ト云物ニ針ヲ堅テハ不直也
終ニ死スルナリ 是ヲ見分ル夏肝要也
喉腫ト云唯堅ク糞粉ヲスリタル如ク
ニシテ腫モセズキヤクト痛ムナリ 是ニ
針ヲ立テ悪レ餘ノ物ニ何ト立テモ
不苦マタ小舌ニ立ルトテ舌ノ下ヲハ
ツキヌカヌ物ナリ 是ヲツキヌケハ細ク
發リテ潰レテハ鼻ノ目ノツブレタル
ヤウナル物出テナラヌナリ

十五 唇

一唇ノ疾類多シ瘡出テ煩フニハ
猪ノ油ヲ又レフサケテ色モナキニ
朮仁ヲ炒テ末シテ油ニテ付ヨ子
リテ黒ク小瘡有ニ明礬 唐白物
等分ニ合セテ付ヨ 亦山中ニアル黄
色ナル泥ヲ搯テ付ヨ亦堅ク子ニリテ
アテハ或ハ針ヲ刺シテ血ヲ出セカサ
フタナドノ有ニモ良ナリ

十六 耳鳴

一耳鳴テ水ノ音ノ如ク有ルニハ
生地黃 東實 等分 紙ニ包テ又ラレ
火ニ焙リ溢カナル時耳ニ卷入テ細ク
カハヨ 亦ハ水ノ入タルニ薄苛ノ汁ヲ

入ヨ赤耳痛ミテ膿ノ出ルニハ 虫屋
末ニ全蠟一 右細末シテ耳ノ中へ
捻リ入ヨ亦只痛ニハ 麝香ヲスリテ
入ヨ又ハ 柏葉ヲモミテ汁ヲ入ヨ
亦ハ朱ヲ油ニテトキテ温メテ 石臼
根ニノ入ヨ亦瘡ナドニハ 黄連明礬
等分 右合セテロ子リ付ヨ

十七 鼻病

一鼻病 鼻血ノタルニハ 梔子仁ヲ
末シテ入レ則留ル只痛ムニハ 藜蘆
ヲ油ニテ又レ亦鼻竇トテ内ニ肉
出テ香モ不聞甚ダシケレハ 膿血出
ルナリ 木瓜 細辛 木通 各等
右末シテ豆程綿ニ包ミテ 鼻ノ中

入ヨ清涕限リナク流シ出テ良シ
亦鼻ノサキ赤クナルツ酒瘡ト云フ
治方ニハ 硫黄 白物 細辛 乳香
各等 右末シテ水ニテ付ヨ 仰レモ皆

新明集ニ有之ナリ

十八 水疔火疔

一疔ニツノ瘡ニ火疔トモ水疔トモ有
火疔ニ火ヲヨセテモ水疔ニ水ヲアテ
テモ 忽チ惡シ此ヲ見分ル夏大夏也
其時青泥丹ヲ付テ見ルニ 熱疔ハ頭
ヨリ 早ク乾ク冷疔ハ 廻ヨリムラク
ト遅ク乾クナリ 圓ニニ寸四分寸
五分ホトノ廣サニ付テ見ヨ

十九 大夏腫物見様

外痔下

一大夏ノ腫物ノ見様アリ鼠糞ノ水

ニテ搦テ付テ見ルニ悪瘡ハヤガテ

色變スルナリ不變ハ不苦ト可知也

一腫物一夜ニウニスル様

一腫物ヲ一夜ニウニスルヤウアリ

蛇皮青衣ニ包ミテ土器ニ水ヲ入テ

能煎シテ鳥ノ羽ニテ百反計リヌレ

一夜ノ間ニウムナリ

遣藥 上卷ニモアリ 此事在新明

一喚藥遣藥ト云夏是家人ノ秘傳

ナリ難治ニ出タル別ノ處ニマリ治

ル夏ナリ。喻合アリノトハタリナトニ

出テ針ナト立ラレ又所ナトノ夏也

頭ニ出荷根

一頭ニ出ル荷根ナドモ愈ルハ何レモ

安ケレドモ若毛ノ不生ハ未代ノ疵ナ

ルベシ此流ニ膏藥ニテ治スルナリ

瘰癧 此三

一瘰癧ニ脂ノ不入石林膏ヲ付ル

ナリ愈クスリニハ四白散ナルベシ

内菓ニハ五香連翹湯專ラ良ナリ

木香流氣飲ナドシカルベシ

金瘡

一金瘡ヲ瘡セハ先問藥ヲ与ヘテ

死ヲ可也是ハ大夏ナル手負ノ夏

ナリ常式ノハ是ニ不及氣付ヲ与ヘ

テ血縛ヲ与ヘヨサテ亦大夏ナルモノ

ヲハ座敷ヲ誘ヘテ可留皆新明ニ有

之サテ洗ヒテ可付ナリ内葉如常
是地方ニナキ度ナリ半日ニ洗ハズ
サ之可洗ナリキリサケテ有疵ヲ
其修葉ヲツクレハ疵ニ成ナリソレ
ヲハ縫付ルナリ縫様ハ布ヲ廣ク々
キテカキメヲ能マツイ元強キ膏禁
シアツクサテサガリタル皮目ニ付
テ亦其トヲリノウヘノ方ニ付テ疵
ニハ如常ニ葉ヲ付テ蓋ヲ能シテサテ
フトキ糸ニテ兩方ノ布ノミヲカケ
ヌイニ縫ヨセテ可直ナリ亦今度ノ
洗時ソロくトキリホトキテ疵計リ
ヲヨク洗フテ如前スベシ

廿五 腸ヲ入事

腸ヲ入ル時口夕夕冷テ堅ク入カ子
ハ麥飯ノ温カナルヲ布ニ包ミテ腸ヲ
能温メテ手負ノ氣ニシタガイ頸
ヘ手ヲ入静ニシロ夕夕ソロくト
ヒ子リ入テ赤ノコリテ不入ハ腸ニ
似合タルモノヲ四カ香バコナドノ様
ナル物ヲ蓋ニシテユイハシテ置テ
又今度モ其ゴトクスベシ亦腸出タル
通ノ背脊ニ護麻子ヲ能押子ヤレテ
膏養ノゴトクニ付テ可置内ハ猫舌
灰ヲ可舂何夏ヲモ三十个條ニシテ
記シ置タリ

廿六 血廻

一血廻リト云ハ疵負テヨリ七日メク

二必ス煩フモノナリ凡一日ニテハ必ス煩フモノナリ是ヲ血ニハリノ用心ト云ナリ

廿七 骨ノ續事

一切離レタル骨ヲ續ニハ井柳ヲ真ニ入ルナリ是モ皮カカリテ有ハ付ナリ落離レタルハ不付ナリ此真モ一寸ノウチニ長サラシテ骨ノスイニ少ツミル程成カ良ナリ切口ニ骨續ノ葉ヲ可付ナリ外ニハ必ス地葉可付ナリ
亦内葉モ未アラ血ノ間ハ芋飯湯可然血治ツテヨリハ亦内補散ヨカ
ルハニ加減ハ可依其時ナリ

廿八 頭疵

一頭疵ニ油ヲ不用鉢ノハレタルニ油入テハ不愈大夏ナリ亦水少シモ入タルモ悪シ鉢ニ疵ノツカ又ニハ不苦ナリ亦此流ニ手負ニ汚葉ヲ不用血ノ勢ヲヨキヲ下シテイヨク氣カフキテ悪故ナリ但腹ナトニ血ノコモリ腹脹痢結メ悪キ時ハ血汚トテ与ル方有リ其時ハ不苦ナリ

廿九 疵人俄ニ血ハレル夏

一疵ノ人不淨直ナトメ俄ニ血ナトハシル夏アリ此トキハ葉ニテ不止其トキハ咒ヒアリ咒ヒヲハ皆人邪儀ナリトテ嫌人アリ是更ニ邪儀ニアラズ

五治ノ内ナリ五治トハ兼治灸治針

治察治是ナリ

三ツホ疵

一ツホ疵ニモノヲサレ入テ置夏大キニ
煎夏ナリ是ハ口ヲ愈サシトテ他方ニ
スル夏ナリ努々不可仕ナリ

世二疵洗藥

一洗藥ニハ蕎麥薔ヲ不可放是口
傳也他人ノ方ヨリ病人ヲ請取ハ必ス
ソノ口ヲ不可缺惡邪ヲ能退者也膿ヲモ
能退ル故也△服藥ノ内藥ニサレ合食
物有レ見分テ注文ニ書記也

世二内藥指合食物

甘草 猪肉 カラシ 兎 三ツホ木

白木ニ 雀 蛤 鱈 麩 朮 スモ、

麥門冬ニ ユフガホ 路

當飯ニ メンルイ シヤウガ

半夏ニ アメ

防己ニ トコロ

辰砂ニ ヨロツノナニケケノ物

黃連ニ キク フキノトウ

黃芩ニ 楮 葱ノ白ミ

香附子 ハモ

常山ニ ヒトモシ

天門冬ニ 鯉 ヨロツ川魚

沢瀉ニ 蛤

防風ニ シヤウガ

地黄ニ 生大根 生蕪

桂心ニ 生ヒトモシ

杏仁ニ フリ 葛粉

茯苓ニ ヨロヅスキ物

巴豆ニ カウノ豆

龜甲ニ 莫イヅレノヒユモ

胡椒ニ タワラゴ

世三 金瘡二十二運

右ノ金瘡ノ煩ヒヲ十二運ニテ所知

ナリ常ノ十二運ト云夏ハ臨帝喪病

死基絶胎養長沐官是常ノ十二運

ナリ此ハ寅申ハ頭ニアリ 丑未ハ尾ニ

有ト云夏ナリ是各別ナリ是ハ何時

何ナル處ニ疵ヲ被リタルト云時ニ心

得ハ夏ナリ變ハ常ニ人ノ云外ニ法疵

ヲ負テ煩フト云亦大夏ノ時ニ天疵ヲ

被テ不苦ト云夏多シ允モ是ニ

可有口傳

世四 疵瘡療治伏々明方夏

是ヨリ允ニ見タリ

世五 膚守

一膚守ト云方是ハ平家方ニ八幡ノ

膚守ト云テ用ヒタリ 鹿茸 自燒

天蓋 灰ニ 右未合シテ藥ノ汁ニテ

付ルナリ 初中後是ナリ 洗葉ニハ

五米入草 内葉ニハ 増損四物用五

ナリ 筋骨續葉ニハ 樓骨ホヲ本ト

用エ有口傳 腸ヲ入腦ヲ入葉ニハ

内葉ニ加減シテ与フルナリ 氣付葉

二八新命丹ヲ用ルナリ

廿六 薄色

一薄色ト云方是八源氏方ニ用ヒタル
葉ナリ 愈葉ニ是也 紫河砂霜
髮ノ油ニテ付ルナリ但ニ薄色ニ餘多
有之 一方ニハ 黒蛤 灰 光明丹 二分
一合ニテ用ユ 一方ニハ 南星 竹糞
石灰 藥ノ汁ニテ付ルナリ 筋骨ノ
葉ニハ 卿ノ腸ヲ搯テ付ル洗葉ニハ
藤胞 魚藥 金銀花 甘草 塩ヲ
入テ煎シ洗フナリ

廿七 白藥

一ムハ葉是ハ板倉源左衛門尉用ヒタリ
第一ノ愈葉ナリ 鹿角 白燒 葛粉

天南星

枯冰壳各等 右髮ノ油ニテ

付ルナリ第一ノ愈葉ナリ 少シモ痛

ム夏ナシ 亦筋骨ノ葉ニハ黄牛角

ヲ用其終モ用ユ亦霜ニシテ用内葉ニハ

人参 芍藥 白芷 薤白 當故

氣付葉ニハ黒猫ノ霜ヲ用ユ洗葉ニハ

ソホク 荷葉ナリ

廿八 琥珀散

一琥珀散 是ハ神保宗左衛門用ヒ

タル葉ナリ 愈葉ナリ 天花粉

白鳥齒 灰 蒲骨根 天花ノ如クニシテ

各等分 右藥ノ汁ニテ付ル亦ハ油ニ

テモ付ル 筋骨ノ葉ニハ 川骨 三

椀柳ニ是ヲ前ノ葉ニ加テ付ル洗葉

二六 并新 石菖 藜 三色 内菘
四物湯ナリ是モ口傳多シ氣付菘ニ
清夏散ナリ

卅九 二二國一

一三國一 是ハ藏買豊後守用ニケル
菘ナリ愈菘ナリ 石灰三蛇骨ニ
乘水 皮一阿仙菘 右油ニテ付ル
筋骨ノ時ハ上ノ二味ヲ本ト用タリ
氣付菘ニ 青地ノ茶碗ノ粉ナリ
内菘ニ 黄芪湯 黄芪 大黃
川芎 當皈 紫檀 各等 右煎服
洗菘ニ 荷葉 藜 塩少シ入テ洗
ナリ ヨ日多シ

卅十 流藥

一流ニ菘丹ハ 嚙田左京進用ニタル
愈菘ナリ 紫檀 川芎 白芷
檳榔 黄栢 蘗木 竹葉 甘草
麝香 加ヘテ煎シ洗フナリ内へ吞
トキハ 葉ヲ去テ用ユ何様ノ疵ヲ
モ如此用ユ也一切是則流シ菘ト云
ナリ 烏霜 鹿茸 灰 川骨 麻葉
白馬糞 黑燒 石末合シテ付ル時ハ
美人草ノ汁ニテ付ル時ハ酒ヲ温メ
テ吞スナリ

卅一 松白散

一松白散 是ハ圓都寺ノ流ニ用ヒ
タル愈菘ナリ但ニ三白散トモ云
天花粉 春葛粉 夏 石灰 各 合様口傳

多シ 洗葉ニハ 五木三草 氣付葉
二六 續命丹 亦腦筋骨腸ノ葉ハ
別ニ有之 内葉ニハ 秘傳芍藥湯也

三二 聖散

一二 聖散 是ハ板坂用ヒタル愈葉
ナリ 黒蛤 灰三 葛粉ニ 右能摺合テ
藥ノ汁ニテ付ルツホ疵ニハ油ニテ付
内葉ニハ 鹿頭 灰三 川骨ニ
冬ニ覆盆子 灰一 當飯一 右未合メ
酒ニテ一錢ヅ、用エ表ニハ四物湯
洗葉ニハ五木 筋骨續葉ニモ
川骨 樓骨ホヲ用エルナリ 氣付ニ
二生散ナリ

三三 安平散

一安平散 是ハ大野丹後守用タル
愈葉ナリ 烏貝 灰 狼頭 灰 寶膏 生
各等 右細末シテ捻カケヨ 深疵ニ
分 墻通ノ汁ニテ付ヨ内葉ニハ 人參
當飯 芍藥 黃芪 栢皮 白芷
黃芩 檳榔子 甘草 右等分

三四 九色散

一九色散 是ハ曾我流トテ用タリ
愈葉ナリ 青鸚 灰 鹿腹コメ 同
蛎貝 同 右未合シテ青木葉ノ汁
ニテ付ル内葉ニハ 地黄 山梔子
川芎 大黃 鬱金 右等分未合メ

如常煎服ス 亦筋骨ニハ顛ノ粉ヲ
用ユ血留ニハ蒲黄ノ霜ヲ用ルナリ

卅五 黄蘗湯

一黄蘗湯 是ハ長屋流トテ用タリ

是ヲ血縛ト云 人参 甘草 白芷

麝麟血 松緑 黄栢 紫河砂

合歡緑 右各等分ニシテ此内ハ虎膽

ヲ入ル 深疵ニハ膽ヲ用ユ筋内ノ疾

ニハ肉ヲ用ユ骨ノ時ハ骨ヲ入ルナリ

兩目ハ各ニ分ナラハ三朱可加也

内蕪ニハ沉香湯ナリ 人参 大黃

川芎 黄芩 白芷 芍薬 白朮

鬱金 地黄 當飯 桔梗 茯苓

沉香 甘草 各ニ分 木香 一分 右虫氣ニ

テ蕪ヲ吐クアラハ亦桔梗ヲ一兩加

ヘヨ不愈トキハ白梅花 丁香皮ヲ

加ヘヨ産後ニハ大黃ヲ加ヘテ用ユ各

二分ナラハ二兩ニ分加ヘヨ兩目ニ双

倍ナリ腸出タル時ニハ黑猫ノ霜ヲ

用ユ口傳アリ 筋骨ノ疾ノ時モ是也

卅六 六味藥

一六味藥 是ハハリナガシトモ云也

沉香 麴 鮭 角豆 川骨

右何レモ霜ニシテ一錢

ヲ酒ヲ温メテ用ユ 但兩目計ニテ

万ノ血ニ用ユナリ 難産前産後万

血道ニ用ユ兩目計ニテ秘夏ナリ

卅七 油藥

一油葉 是ハ南蠻人用ルル葉ナリ

ヤシヲノ油ヲニヤレテ銅ノヘラヲ入

テ其ヘラニテ其疵ロヲナテ又穴ヘ

モ。銅ノヘラニテ入テソレニ阿仙葉

ヲ加テ付ルナリ内葉ニ通榮湯ト

云方ヲ用ユ 當皈 三黄 芪 人參

白芷 桂心 大黄 麝香 分地黃 三

右何モキサ三如常煎服ス右ノ諸方ニ

家々ノ秘方有之 矢ノ根ヲ吸方物

ヲ吸葉 蛇皮 猪鼻 蟪蜋 白虫

草麻子 鹿目 鮭皮 鮎皮 海鼠

菴根 右是ヲ家々ニ秘シテ用テ也

亦血ヲ留ル葉是モ同前也 實虫 霜

百霜 微茸 蓬白麥花 蒲黃

杉原霜 躑躅 松緑 三草 生草

霜 艾霜 亦此内ノ表葉ノ方皆愈

葉ナリ 止血 灰 天花粉 重葉

美人中△六地葉 青木葉 黃栢

蚱蜢 白犬頭 髮毛 灰 兼兵茸

鹿角 亦痛ミヲ止ル葉是モ皆方ニ

見タリ 南星 疼中 灰 甘中

生中 麒麟血 蓼穗 右ノ條々ハ

此内ノ秘方ナリ昔ヨリ今マテノ覺

ノ衆ノ方ナリ此外ニ何 條モ有之

ソレニモ良葉多シ是ハ此内ノ流計

ナリ亦膏葉ノ方百个條モ其覺

ノ分ヲ記シ置タリ此中ノ勝レタ

ル方ヲ貫聚メテ一流トメ置タレバ

予常ニ是ヲパカリ用ユ

卅八 生散

一主散ハ蒲黄一兩人參半兩胡
耳中糸ホ分 是毎ノ方也 神保方ニハ
黄 参 梓 耳 干姜ヲ加ル也
板坂方ニハ 黄 参 梓 耳 葛粉
ヲ加ル也

卅九 新命丹

一新命丹ハ青地ノ茶碗ヲ粉ニシテ
水ニテ用ヒルナリ 亦方ニ古麻中 霜
合歡 同 是ヲ用ヒルモアリ 其外多也

天正九巳年十月廿二日 藤原秀次
五下 諸膏藥之明方

至 萬安膏

一萬安膏 疔腫物方ニ良シ然レトモ
只赤ク腫タルニハ惡シ 松脂 壹匁タルヲ
仙仁草ノ葉ヲ能摺テ其汁ニテ膏
ク成ホド可洗口傳有之

五五 佛下膏

一佛下膏 專ラ荷根ニ用ヒタリ方ニ
良シ 松脂 如前 荷葉 霜ニツレニ
右如常煉合セテ置 藕根ニ付ル時ハ
毛ヲソリ針ニテ頭ヲ十文字ニ
キテ膿ヲ能出メ厚キ紙ニ押ヒラ

五三 神仙膏

一神仙膏 松脂 如前 燕窠 玄奘
白物 右三色等分ニ合テ二兩入テ

可煉合ナリヨク方ニ第一良ナリ

五十四 太全膏

一太全膏 癰ニ專ラ良シ 松脂如常

三十 鼠實カウケヲ土器ニテ炒テ能未レテ

二兩二分入テ煉合セヨ男鼠ノ糞ヲ

用ヒヨ白物ヲ茶一服ホド加ヘテ良

五十五 石林膏

一石林膏 專ラ癭ニ用ヒタリ萬ニ

侍ナリ△椒ノ若枝葉ヲヨク煎シヨ

ク煉テ堅ク成ホドニシテ置ソ

五十六 辰千膏

一辰千膏 是ハ唐瘡ニ付テ良シ

脂チリテ 施子霜 黄栢同 丹礬

白物 朱砂 右何レモ未合シテ各一

分ツ入テ煉合ヌヘシ

五十七 万金膏

一万金膏 萬ニ良ナリ 脂如常

仙人草灰一 白物分 右可煉合

五十八 太し膏

一太し膏 万ニ用ユ白芷 川芎

大黃 換榔 當飯 黄芩 荷葉

灰チマツ 重蕪 仙人中灰各 右上ノ六味ヲ

八水三味入一殊ニ煎シ下ノ三色ノ

灰ヲ入テ二日程煉レ方ニ良シ天口モ

スル付モスルナリ

一方 脂百目 重蕪 灰 鳶羽 灰

右等分ニシテヨク可煉ナリ

五十九 吸疾膏

一吸疾膏 腫物膿出崩レタルニ良シ

折タガヒタルニ良シ 脂子リ 青木葉五目

灰同各 仙人草四各 白物半錢 右如常可煉

辛 保命膏

一保命膏 万疾ニ良シ 脂 丁子

阿仙藥 藤胞各一 乳香 蓖麻子

各二各 川芎 白芷半 檳榔半兩 防風

荆芥各二 白檀二分 右各水二升入

テ四合ニ煎レサテ亦藥鍋ニ入テ蓋

ラシテ煉トキ麝香二朱 白物一分 加

ヘテ煉合せ天目ナトニ入ラキ腰痛

ム時 紙二枚 テ付ルナリ頭痛ニハ

ヒタイニ付ル脚虫ニモ付ル吞モスル

ナリ疵腫物ニ專ラ付ル血道ニハ

當飯ヲ煎レテ其ニテ吞セヨ脚氣ニ

モ付ル万ニ良シ 一方 脂百目 冬覆盆子 生川

石菖 重葉各灰 右四種ノ灰ヲ一

処入テ煉合せ一切研ニモ用ヒテ良

辛 玉鑰膏

一玉鑰膏 脂百目 沒藥 乳香各一

白物二分 右如常煉也癖ニ三用效也

又方 脂百目 青木葉 車前各灰

右灰ハ二兩ツク入煉リ繁ノ汁ニテ

洗フテ付ナリ

又方 脂百目 蓖麻子灰一 白丁香

右白物一分 加ヘテ子ル能吸也

辛 仙人膏

一仙人膏 脂百目 蟹糞 青木葉
蘇合灰 右白物一朱 煨方二用二

又方 脂五十 鹿茸三分 蘇合一分
重藥二分 各灰 黃栢一分 右如常煉ル

方二良レ愈菜ナリ
六三 蒲金膏

一蒲金膏 脂百目 雞糞 石龜
雁鳥頭 各灰 右如常煉合セテ

青木葉ノ汁ニテ能洗フ也方二用ヒ
テ佳ナリ

又方 脂百目 青鷄一瓦 个ヲ三分
編蝠各灰 白物一朱 右如常煉方二

六四 金仙膏
一金仙膏 脂百目 當飯 白芷

仙人中 枸杞 各粉ヲ
合セテ可煉ナリ 吞モ付モセヨ

六五 吸し膏
一吸し膏 脂百目 董 土竜 所

鵝霜 黃栢 生 右四種等分ニ合セテ
十三文目入テ可煉合方腫物ニ一段

良キナリ
一方 脂百目 鷹灰 蚕糞

王不留行 輕粉 右三種等分輕粉
之ニ朱加合テ如常可煉ナリ

一方 脂百目 田螺十五 輕粉二朱
右煉ヤウ如常專ラ遺根ニ良シ

六六 一印膏
一一印膏 脂二百 蛙頭 海鼠 同

猪鼻 同 紫中 同 右等分ニ合セテ
世目入テ煉合セ付時青木葉ノ汁ニ
テ洗ヘ一段吸ナリ

亦方 脂 五十 猫頭 灰 藥 同

石鼓 同 右等分ヲ八分入リ一切ニ勝

一方 脂 百目 赤螺 二及 莖 二分

丁子 一分 右煉様如常一切ニ用良

亦方 脂 二百 百霜 十及 朱 三分

施子 五冬 白物 一朱 右如常煉リテ

藥ノ汁ニテ可洗

一方 脂 百目 金銀花 八文 重葉 五

同 換椰子粉 二分 右煉用能愈ナリ

亦方 脂 七十 鱉牛 灰 車前 同

大黃 生 右三種等分ヲ二兩入テ煉

一方 脂 百目 黃栢 生 白芷 同

乳香 同 右等分ヲ拾文目入白物必シ
入レテ煉

紫金膏

一紫金膏 脂 青葉 藥 車前

仙人中 右ヨク搗テ可煉

一方 脂 百目 圓鼠 八文 牽牛子 三及

生白物 一朱 右常ノ如シ脚氣一佳

六八千仁膏

一千仁膏 榆白皮 黃芩 白芷

川芎 丁子 末香 青葉 烏羽

王不留 杜仲 松脂 各二 右水四升

入テ五合ニ煎シテ能ユシテ又葉鑷ニ
入テ蓋ヲシテユルク煉シ諸病ニ用ユ

萬勝膏

一萬勝膏 脂二分 仙人^丸 蟾蜍^文
忍冬^葉 二文 右煉煉如常又仙人ノ
汁ニテモ可付專ラ斑ニ良シ腫モノニ
无類ナリ

一方 脂^{五十} 黃栢^日 寶膏^同 灰
輕粉一朱 右如常煉ナリ

亦方 脂一合 仙人草ノ葉ヲ陰乾
ニシテ茶臼ニテ搗テ右拾五文目入テ

煉合セハコベノ汁ニテ付ル萬ニ用也
亦方 脂三合 鳶頭^青 瞿麥^葉

右何レモ霜ニシテ等分ニ合テ六兩入テ
可煉煎ク腫物ニ良シ
一方 脂三兩 地竜^灰 重葦^同

タツノ木^同 右等分ヲ五文目入テ
白物一朱加テ可煉方ニ良シ

又方 脂三合 狼毒^灰 黃栢^生
硫黃^生 黃連^生 施子^生 車前^灰

丹礬^生 海兵草^生 朱砂^生 輕粉^生 右
等分五兩入テ可煉唐瘡^方ニ良

一方 脂一合 榆皮^灰 蟾蜍^灰
右等分ヲ四文目入テ可煉

一方 脂二合 鼠尾^中ヲ糝ニシテ
白物ヲ加テ可煉ナリ

膿失膏

一膿失膏 脂一合 赤蜻^粉ヲ干テ粉
ニシテ白物ヲ加テ可煉

亦方 脂一合 蠟^霜五文目入テ可

煉能吸ナリ

一方 脂ニ合 臍ノ緒ノ霜六文目
白物ニ朱入テ可煉

一方 脂ニ合 藜灰 キラン中同

荷葉同 各等分右六文目入テ煉也

是八色モナク痛ニ付テ良

亦方 脂ニ合 ナメクシリヤ灰

百舌鳥 中同 荷葉 小同 スギナ 大同

右合せて十二文目入テ可煉ナリヨク

吸フナリ 腰ノ癩ニ折ケニ良

七五 吸六膏

吸六膏 脂百目 蜂巢灰 堂鳩糞

其俟ヨニス 右等分ニ合せて二兩入テ

可煉方ニ良

一方 脂百目 蛇皮 三尺ホトヲヨク

右可煉合ヨク吸ナリ

亦方 脂百目 白犬頭 二兩 大蓼 二分

同 金銀中一分 右如常可煉

亦方 脂ニ合 冬ツクムハタ井柳 同

檜 同 右三十目宛ニ水三升入一合

ニ煎シテ油一文目入テ可煉合五ニ

良キナリ

一方 脂ニ合 青葉ノ霜ニ兩入テ

可煉疔ニ良

一方 脂ニ合 イタダ皮 灰 牛面中 灰

七五 光明膏

右等分ヲ拾文目入テ煉

一 光明膏 脂 半斤 髮毛 三文 藥 二文

右先ノコトク可煉一切方ニ用良也

七十三 萬用膏

一萬用膏 脂三兩 乳香 薰陸香
白芷 梅檀皮 右五兩ツ、入テ水
一殊ヲ三合ニ煎シ三兩ノ脂油一度
入テ可煉ナリ

一方 脂二百 烏ノ頭目灰 鶴虱目灰
右二色ヲ搗テ石見川ノ汁ニ入ヨ

亦方 脂二合 葛丸燒目 右能
摺テ八文目入テ可煉ナリ

七十四 大愈膏

一大愈膏 脂一升 仙人中霜目
髮毛目灰 右如常煉用エ下切ノ
腫物疔又打タカイタルニモ宜也

又方 脂七十 筭ノ生留目灰
美人中目灰 右煉様如常

一方 脂五十 蛙頭目灰 右如
常煉ナリ

七十五 惣勝丹

一惣勝丹 黄芩 黄連 黄柏
黄芩 當飯 芍藥 川芎 沉香
丁香 乳香 杜仲 南天 古麻
石菖 枸杞 右一两宛ニ水二殊ヲ
五合ニ煎シカヌラ去脂十文目ニ油一
兩入テ何モ一ツニ入合テ可煉諸病
ニ吞モ付テモヨシ

一方 脂五合 三毛 反 薄 反 烏
同 重藥 同 右等分ヲ廿目入テ煉レ

亦方 脂百目 石膏 灰 冬覆盆

同 右等分ニ白物一文目入テ可煉也

亦方 脂如常 繁如常 壙通如常 車前如常

雪下如常 赤苜如常 右各ツキ如常 拵テ其汁如常

ニテ青ク成程ニツクヘシ

一方 脂五サ 擻油 苦辛灰

牛膝同 右等分ヲニ文目入白物朱

加へ煉レ

亦方 脂百目 芭蕉根 苧麻子 灰

右等分ヲ二兩入テ煉リ用ユ

亦方 脂百目 苧根 灰 薤根同

右等分ヲ十文目入テ煉用ユヘシ

亦方 脂百目 青葉能末同 之味ヲ

拾一文目入テ煉合スヘシ

又方 脂一合 忍冬ノ葉同 ヲツキ拵

リテ汁ヲ入テ可煉合ナリ

亦方 脂五十 繁 灰 キラシ同

右等分ヲニ文目入テ煉レ

七六 清金丹

一清金丹 脂二百 黄栢十兩 二水

一殊五合入テ三合ニ煎レ至霜 二文

入レ

一方 脂如常 常煉テ重蒸同 ヲヨク

スリコレテ其ニテ付ヨ

一方 脂拾兩 髮毛同 三兩入テ毛ノ

トクルホト煉テコレテ白物一文目加

ヘテ可煉ナリ万夏 三妙ナリ

一方 檳同 葉同 一殊ニ水五殊入テ

二合ニ煉ツテテ黒蛤ノ灰ヲ二兩入
テ脂五兩如常煉テ一ツニ煉合ス
ヘキナリ取分瘡ニ良シ

一方 脂 如常 梨 桑 瓜 槐

荷 藥 菖 右此五木三申ヲ濃ニ
煎シテ色人返スルホド煎レソクスベシ

万妙ナリ

亦方 脂 百目 郭公灰 蓮花ツシ同

右等分ヲ五文目入テ子ルベシ

亦方 脂 世目 蟻灰 一文目入テ可

煉癰腫物ニ良也

亦方 脂 一合 烏貝 灰二 白物 少

右如常可煉万ニ良

一方 脂 如常 仙人 青葉 藥

右常ノ如ク煉シ

七十七 金竜膏

一金竜膏 脂 二百 藕根 八文 芭蕉根

五文 白丁香 一文目ヲ其俣スル

一方 脂 百目 百霜 七文 白物 一朱

右如常煉用ユ

一方 脂 三合 鹿目 二兩 梳皮 二兩

右如常可煉合ス

七十八 疵膏藥

一疵膏藥 脂 一合 川骨根 灰 仙人中

同 右等分ヲ三文目入テ煉ナリ

亦方 車前子 一升 芋葛 批 沒藥

二 右水二味ヲ二合ニ煎シカスヲ去テ

又ヌル火ニテソクニ煉上ヨ脂ハ不

入ナリ

一方 脂三合 蛇床子

髮毛

吸葛各二 右如常子ル

亦方 脂三合 蟾蜍 蜈蚣 右等分

ヲ拾二文目入テ仙人ニテ可付

又方 脂 如常 美人ノヲ濃ニ煎シ

可煉合專ラ疵ニ良シ

七十九 方用膏

一方用膏 脂二合 菟馬齒 灰 白大齒

同 黃牛 同 右等分二兩入テ煉ル

亦方 脂五合 振若立霜ニシテ

三兩入テ煉ナリ 桂木ニ良シ

一方 脂五十 蓬 灰 重藥 同

右等分ヲ二文目白物一朱加ヘテ煉ル

ハス子ニ良シ

亦方 脂二百 羚羊角 粉 鳶頭 兩

灰 右煉合テ仙人ノ汁ニテ可付

亦方 脂二百 荒和布 二兩 早稻苗

同 右各合セテ子ルナリ

一方 脂百 蟬脫 一兩 右各合セテ

煉ナリ 方ニ良シ

全用定膏

一用定膏 脂百目 蘓木 ナモ三

黃栢 右濃ニ煎シテカスヲ去テ煉ル

又方 脂二合 赤螺 三文 右如常

煉用ニ方ニ良シ

又方 脂五十 鯉鱗 灰 野蘭 虎杖

牛膝 此三色ヲ濃ニ煎シテサテ灰

ヲハ後入ヨクニ付テ良ナリ

全 安平丹

一 安平丹 脂二百 雞糞穿山甲
輕 青葉 楝 右各末シテ等分ニ
合テ拾五文目入テ煉用ニ是ハ強ク

全 專用膏

一 專用膏 脂一升 當飯 川芎
白芷 南星 粉ニソホク 檳榔 杜仲
沉香 丁香 梔子 右各一两ツ、
濃ニ煎メトロメク程ニシテ脂ヲ可合
ナリ

又方 脂五兩 蠟牛 灰 蚘 石
等分ヲ三文目入テ可煉ナリ

又方 脂五兩 麩二分 白物一文

右如常練合ス 潔病ニ良也

全 膏藥之練様

右松脂如常ト云ハ 脂ヲ練囊シテ糟
ヲ去テ亦練リ油ノヘリ次第ニ楹ニ
付テ水ニツケテ冷シ見テ加減ヲ可
知何レヲモカヤウニシテサテ葉ヲ入
ヨ亦絞リ汁ヤ煎シ汁ナトヲ入時ハ
先ヅアケテ少シ醒シテ入ル、ナリ火
ノ上ニテ合スレハ煮コホレ出テ惡
キナリ少ツ、入テ无由新楹ニテ、
ハレテ入ヨ物ニ而膏蒸ト云ハ只專
吸計カ役也次ニ愈方也唯能吸力
肝要ナリ數多書置夏ハ不入トモ心

ヲ知シメシガタメニ如此ナリ此内
ニモ肝要ナルハ唯二三小條有之
未ダ此外ニ数多アレ其ニ役少
シ依之今不舉膏葉ニ別ニ役アル
様ニ不思ナリ

慶長十一兩歳十月十六日

鷹取甚右衛門尉藤原秀次

寺町二条下町

中村五兵衛



三州渥美之郡御厨莊保美邑之佳山本平右衛門

千時寶永二年八月十六日

